

市政一般に関する質問を続行いたします。

鈴木富美子議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位5番、議席番号6番、鈴木富美子議員。

(6番鈴木富美子議員登壇)

○**6番 鈴木富美子議員** 長井創生の鈴木富美子です。本日、最後の質問となります。暑い中、お疲れではございますが、よろしくお願ひいたします。

お盆も過ぎまして、稲穂がおじぎする季節となりました。ことしの夏は命にかかわる暑さで、体調不良、熱中症など、今までに経験したことのないような気候が続きました。また、先日の台風21号に続き、本日の北海道地震など、いつ、どこで、どんな災害が起きるのか全く予想がつかない異常気象となりました。災害に見舞われた皆様には、心よりお見舞い申し上げたいと思います。

さて、先月の8月16日、お盆ですが、長井ダムに行つてまいりました。その日のダムの貯水量は50%という新聞での発表でしたが、合地沢に行つてみたら、川底が見え、異様な光景というか、恐ろしさも感じたところです。それでも、水のまち長井にふさわしく、お米が豊作であることをお祈りしたいと思います。

それでは、質問に入らせていただきます。

7月の10日から11日まで、産業・建設常任委員会の視察で、兵庫県三木市に行つてまいりました。三木市の状況について少しお話をさせていただきますが、三木市は、人口7万9,725人、出生率、平成17年は1.07人と、兵庫県内で最低基準になったそうです。それから、いろいろ施策を練つたところ、平成22年には1.15と少し回復をしたようでした。三木市では、縁結び課を

設けて、婚活支援事業に取り組んでいるとのお話を聞いてまいりました。

長井市においても、今後、婚活支援事業のさらなる充実が必要ではないかと思ひ、質問をさせていただきます。

初めに、昨年の婚活支援事業の実績として、いろんな形で婚活パーティーを行っているようです。平成29年度の決算資料によると、1年間で8回の事業を行つており、平成21年度の事業開始から現在まで、4組の成婚があり、特に平成29年度は2組、平成30年度は1組の成婚が報告されています。

どのような出会いが成婚に至るに有効なのか、長井市としてどのように把握しているのでしょうか。婚活支援事業は、平成21年度から平成29年度まで9年間取り組んでおりますが、前例踏襲ではなく、効果的な事業に重点化して、めり張りのある取り組みが必要なのではないでしょうか。今年度は10年目に当たりますので、大きな成果が得られることを期待して、総合政策課長にお聞きいたします。

2番目、長井商工会議所との協力イベントの若者交流パーティーや長井商工会議所青年部との協力イベント、BBQこんかつ、長井仏教会とのコラボイベント、寺コンなど、他の団体で主催している婚活パーティーとのジョイントイベントへの協力はどのような形で行うのか、総合政策課長にお伺ひいたします。

3番、結婚経験者やシングルマザー限定のスィーツパーティー、女性は県外限定の首都圏との交流も行つています。その成果はどうでしょうか、総合政策課長にお伺ひいたします。

今現在、婚活サポーターの方、15人がいろいろな工夫をなされ、活動されているようですが、昔は、俗に言うおせっかいおばさん、おじさんがお互いの情報を交換することにより縁談が成立していました。婚活サポーターのほかに、仲間ボランティアを募集してはどうでしょうか。

仲人ボランティアとは、お茶飲みをしながら、お互いの情報を交換し、長井市に情報を提案する。仲人ボランティアの方には、登録してもらい、少しでも多くの情報を収集できる体制が必要なのではないでしょうか。副市長はどのようにお考えになりますでしょうか。

次に、仲人ボランティアと婚活サポーターとの連携により、少しでも多くの出会いがあるのではないかと思います。裾野を広げ、地道な草の根作戦をし、多くの情報を収集できるのではないのでしょうか。そして、めでたく成婚なされたら、子育て支援の充実、移住定住の支援など、切れ目のない支援も必要かと思いますが、副市長のお考えをお聞かせいたします。

続きまして、第2項目、オリンピック・パラリンピックの取り組みについてお伺いいたします。

初めに、総合政策課において、現在、オリパラ関係にかかわる取り組みの仕事内容はどうなっているのか。また、このほど、タンザニアから着任したスポーツ国際交流員は、タンザニアの東大と言われる大学を卒業なされた優秀な方とお聞きしております。このスポーツ国際交流員は、どのような業務を行う予定なのか、あわせて総合政策課長にお伺いいたします。

次に、今、10月21日に行われます長井マラソン大会に向けて、いろいろな企画がなされておりますが、スポーツ課との連携はとれているのか、どのように進んでいるのか、総合政策課長にお伺いいたします。

ことしの長井マラソンは、オリンピック・パラリンピックの前段となるイベントとなりますが、本番に向けての専門の係を設置してはいかがでしょうか。今のままですと、それぞれの課での活動に統一性がなくなるような気がいたします。

県内では、米沢市、南陽市がホストタウン推進室を、村山市では、東京オリンピック・パラ

リンピック交流課、東根市はホストタウン推進係を設けて、準備をしているようですが、長井市としてはどのようにお考えですか、市長の考えをお伺いいたします。

また、オリンピック・パラリンピックが終わってからも、オリパラの取り組みをきっかけとして、国際交流がさらに大切になるかと思われます。そのためには、今回の国際交流を活用した専門の係が必要になってくると思います。教育委員会においても、英語力の強化に力を入れている現状からも必要かと思われますが、市長のお考えをお聞かせいたします。

以上で壇上からの質問は終わります。ご清聴ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えを申し上げます。

鈴木富美子議員からは、私からは、2点目の2020年のオリンピック・パラリンピックホストタウンの取り組みについてということで、オリンピック・パラリンピックのホストタウンについて準備状況を問い、事業の成功に向けて、今後の方向性をということでご提言をいただきました。

まず、最初に、オリンピック・パラリンピックホストタウンに向けて、専門の係が必要なのではないかというご提言でございます。

現在、県内では、13市のうち、新庄市と尾花沢市を除く11の市と、あと先日、白鷹町が中国のソフトボールのホストタウンということで登録がなされまして、12の市と町がホストタウンとして登録されたということでございます。山形市と鶴岡市、酒田市ですかね、複数のところなどもございます。

それで、そのうち、村山市では、これは、鈴木富美子議員おっしゃるように、教育委員会の中に新たな課を新設しております。そして、米沢市と南陽市では、課の中に新たな室をつくらせられると、東根市では、新たな係を創設し、

取り組みを進めているようでございます。

長井市でございますが、これまでは主に競技に係る部分を教育委員会の生涯スポーツ課、競技以外の部分を総合政策課で分担しながら、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業に取り組んでおります。しかし、オリパラ、オリンピック・パラリンピック、省略してオリパラと申し上げますと、さきに上げました2つの課だけではなく、学校教育課、そして、文化プログラム展開のための文化生涯学習課、障害者など、これパラリンピックでございますので、福祉あんしん課、また、インバウンドや観光客に対応するための商工観光課、また、地場産業振興センターや、やまがた長井観光局などまでも巻き込みまして、市を挙げて取り組むことが必要でございます。

そんな意味から、もうこれは市を挙げてやらなきゃいけないということで、1つの課にそれらの人たちを集めるというのは不可能です。したがって、来年度あたりにやるとしたら、本来であれば、課をつくらないと、係をつくっても意味がないと。係に1人、2人の係がいて、その1人、2人でできることではございませんので、また、窓口として、特に私どもは、内閣府の中にオリパラの事務局がございます、そちらのほうとの連携、また、外務省等々との連携、あと、JICAに私どもは大変お世話になっているわけございまして、それに加えて、例えば今回の長井マラソンなんかですと、私ども、タンザニアの場合ですと、陸上、マラソン等々が主な出場される競技になるかと思いますが、そういった場合は、日本陸連とか、そういったところともつき合いしなきゃいけないと。そうしますと、今のところですけども、係を置いたからって言って、その係の人が全部行けるかっていうと行けなくて、結局、私とか参事、あと課長級を連れてぐるっと回って、いろんなところを根回ししないとできないんですね。

したがって、今後、私ども長井市でしたら、課をつくるのは難しいとしたら、まずはプロジェクトとしてしっかりと組んでいく必要があるのかなと、プロジェクトのほうが一番じっくりいくんですね。どうしても1つの係にしますと、そうするとそこが担当になるわけですね。そうすると、担当から依頼されたら協力しますよっていうことになるんですよ、往々にして。特に長井市の場合は6カ所に役所が分散してますので、係を1つ置いたからといって、それで済むような状況じゃないものですから、その辺のところは、議員おっしゃるのはごもっともなんですけど、今の長井市の実情に合わせて、来年度から具体的な係、係ではしようがないので、室か、課はちょっと難しいかなと思っておりますので、考えてまいりたいと思いますし、まず当面、プロジェクトチームのような形で連携を図りながら、そして、係、課だけではなくて、いわゆる部門ごとに、総務部門、教育委員会の教育部門、それから厚生部門等々との連携を図りながら進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくご指導賜りたいと思います。

続きまして、2点目でございますが、オリンピック・パラリンピックが終わってからも国際交流を活用した専門の係が必要なのではないかとということでございます。

これはごもっともで、2020年の東京オリパラのホストタウン事業は、長井市の次世代を担う青少年、特に小・中学生や高校生にとって、今後のボーダーレス化やグローバル化がますます進展する社会、世界的にどんどん進んでいくわけですけども、特に重要性を増す国際感覚を養う貴重な機会と捉えております。ALTの全小・中学校への配置や国際交流員、スポーツ国際交流員の採用もその一環でございます。また、2020年のオリパラの時期には、タンザニア連合共和国や友好都市の中国、双鴨山市の方々も長井市を訪れる機会がふえますし、ドイツの私ど

も姉妹都市であるバートゼッキンゲン市に加えて、バートゼッキンゲン市のヨーロッパの友好都市、オーストリアのプルカースドルフ市、イタリア、サンテラモ市、それからフランス、サナリー・シュル・メール市、スイスのネーフェルス市の皆様には、27年前の1991年に長井市で行いました友好都市の集い、これ、ヨーロッパの各都市、5都市から来ていただきまして、長井市でその集いを行ったんですけども、また、ぜひオリパラのときに日本での拠点を長井市としていただく取り組みづくりなど、仕組みづくりなどをつくり上げていきたいと考えております。

議員から提案ございましたとおり、ホストタウンの取り組みは2020年以降も連綿と続けていく必要があると思います。そのためには、専門の係の設置がよいのか、各部門に必要な応じて参集するプロジェクトチームのようなスタイルがいいのかなど、今後検討したいと考えておりますが、一番理想的なのは、県のように国際交流推進室とか、観光文化スポーツ課とかですね、これもう一体なんですよ。その辺などをぜひいろいろ勉強させてもらって、その後もきちっと交流を続けながら、次の世代の子供たちにしっかりと国際感覚を養っていただくような、そんな取り組みをしてみたいと思います。以上でございます。

○渋谷佐輔議長 遠藤健司副市長。

○遠藤健司副市長 議員からは、現在活動している婚活サポーター委員に加えて、仲人ボランティア制度を創設して、情報収集を強化して、婚活活動を活性化してはいかがかというようなご提案をいただきました。

現在、長井市の婚活サポーター、16名いらっしゃいます。皆様には結婚を望む市民、あるいは長井市にお勤めの方の結婚の願いをかなえるために、毎月1回、第2か第3火曜日になりますが、夜間お集まりいただいております。そこ

では、婚活パーティーの企画、あるいはパーティーへの参加呼びかけ、また、パーティーの前には、特に男性ですが、パーティーに臨む心構えを勉強する男磨き塾というのをやっています。そういうことの準備、数々のイベントなどを実施していただいております。なによりも、もう随時、結婚を希望して登録されている皆さんについては、連絡をとり合いながら、土曜、日曜、夜間にかかわらず、ご尽力をいただいております。そういった中で、日常的にお見合い等々のお取り組みをいただいているところでございます。

この婚活サポート委員会には、結婚を希望される方に登録をいただいております。その際には、登録の申込書を提出いただいております。申込書は相当詳しいものを提出いただいております。学歴を含めた経歴、あるいは職業、家族構成、自分の趣味、資格、酒、たばこを吸うかなどなど、嗜好やあるいは結婚歴、あとは日常生活をどう過ごしているかなどまで、相当詳しい情報を登録していきます。加えて、相手に望む年齢、また身長、容姿、職業、年収、また、親との同居などについても希望を聞きながら登録をいただいているのが、現在の婚活サポート委員会での登録の状況になっています。大事なものは本人の最近撮った写真、これも必ず提出されております。

こうした情報を委員会ではそれぞれ理解して、現在67人いらっしゃる登録者の皆さんに、この夏は7月から8月まで、全員に連絡をとって、面談をしていただきました。全員おいでにはなりませんでしたが、つまり、結婚したいという強い意志のある方が面談に来ていただいて、こういった皆様に婚活サポーターの皆様が約1人30分の時間で面談をしました。

議員からは、お茶飲みをしながら、結婚を希望する人の情報交換を行う方に仲人ボランティアとして登録していただいて、市に情報提供を

する制度をつくったらどうかというような提案でございます。市民の皆さんが自主的に仲人の活動をしていただくことは大変ありがたいことですし、歓迎すべきことだというふうに思います。そういう情報が多ければ多いほど、お見合いをセッティングするための情報がふえるわけですし、結婚を希望する方もまためぐり会う機会のふえる基礎的なデータになるというふうに思います。

ただ一方、先ほど申し上げましたように、結婚を希望する方は、やっぱり相当、自身の情報については敏感に感じておられます。やっぱり成婚、結婚まで結びつくには相当正確でしっかりした情報が大事というのが婚活サポート委員会、サポーターの皆さんの共通した認識であるかというふうに思います。

このように婚活については、個人情報の重要性が非常に高いことなども踏まえますと、やはり登録申込書の内容、あるいは面談で結婚を望む方より正確な情報を把握して、そして寄り添って、時には励まして、成婚に導くことが一番の鍵になるのかなというふうに感じております。

ご提案の仲人ボランティアの皆様は情報をいただくにしても、その情報を活用させていただくのは、やはり婚活サポート委員会の皆様になると思います。ですので、本当にボランティアの気持ちで何とか結婚させたいというふうな情報をお持ちの方は、まずは最初に、お近くの婚活サポーターの皆様はそういったお話をしていたいただければなというふうに思います。

年に1回、「広報ながい」のほうに婚活サポート委員会、そしてサポーターのご紹介、そして地区の割り振りもしたものを記事として上げておりますので、まずは、そういった婚活サポーターの皆さんにお話をいただければなというのが私の感じているところです。

なお、ただいまの提案については、9月の婚

活サポート委員会で、こういった提案があったということ報告して、サポーターの皆様からの意見もいただきたいというふうに思います。

結婚を望む市民が一人でも多く幸せになっていただくように、今後も婚活活動に推進していきたいというふうに考えております。

もう1点は、三木市についてのご紹介と提案でございます。三木市についても、ホームページを参照させていただきました。縁結び課の業務は、婚活支援、あとは移住定住促進、あと空き家バンク、そして、ふるさと納税を担当していらっしゃると思います。三木市を紹介して、そして、暮らしを始めたい人に総合的な窓口の機能を持った課として設置してあるというふうに見ております。

もちろん長井市としても、成婚された方については、婚活事業を担当する総合政策課、市民相談センターだけではなくて、各課で情報を連携しながら、長井市で幸せに暮らしていただくために切れ目のない支援を、地方創生の観点から行っていることは議員ご案内のとおりであります。

具体的に成婚後に想定される支援、情報提供の主なものを上げてみますと、健康課では、妊娠、出産、育児の切れ目のない相談窓口としての「すまいる一む」を設置しています。子育て推進課では、保育コンシェルジュを配置して、保育所に入所の際の適切なアドバイス、また、家庭児童相談員が子育ての悩みなどの相談に応じる体制をとっております。

建設課のほうでは、定住促進住宅のうちの一部を子育て世帯専用確保しております。安い入居家賃で住んでいただけるようにしております。また、幸町のもとの財務省官舎につきましては、子育て専用の住宅とすべく、今定例会のほうに改造費を上程させていただいております。

さらには、総合政策課の市民相談センターでは、今年度から、結婚の新生活支援事業という

ことで、新婚生活を始める際の引っ越し費用、あるいはアパート費用の補助を行うこととしております。

婚活活動を通して、そして、成婚された、こうした皆様には情報提供、ご案内は、市民相談センターで十分可能ですし、そういった方を把握しているのも市民相談センターですので、また、市の情報だけではなくて、国や県の子育て支援、移住定住の施策についてもご紹介できますので、今まで以上に結婚相談の窓口に加えて、成婚後の生活の相談窓口としても市民相談センターを積極的に機能させてまいりたいというふうに思います。

もちろん、こうした取り組みについては、市の婚活支援事業をきっかけで成婚される方々に限るものではないというのはご案内のとおりです。地域創生の中で、長井で暮らし始める方、始めたいと思ってる方々に、子供を産み、育て、高齢者となるまでこの長井で幸せに暮らしていただけるような、そういった体制を今後ともしっかりと強化してまいりたいというふうに思います。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘地方創生参事兼総合政策課長** 私にご質問のありました5点について、順次お答えさせていただきます。

まず、婚活支援事業に関する3項目につきましてお答えさせていただきます。

一番最初に、どのような出会いが成婚に至るに有効なのかに関してでございますが、婚活支援事業に対しまして、結婚をしないことが悪いのかとかというご意見もいただくこともございますが、結婚を、いわゆるさせるのではなく、本市では、結婚を望む人が一人でも多く成婚に結びつくことを願って婚活サポート委員の皆様とともに活動を行っております。

例えば一例の婚活事業を申し上げますと、29年度では、いわゆる自主開催の、婚活サポート

委員会で開催した事業では、首都圏在住の女性と地元男性との交流、これには8人の方が参加なさいました。あと、結婚歴のある女性、またはシングルマザー限定のパーティーでは、2回行いまして、合計31人の方、あと男磨きセミナーと申しまして、先ほど副市長からもございましたが、どうしても、最近の婚活パーティー見ますと、女性の方が非常に積極的で、非常にお誘いするんですけども、男性の方がなかなか積極的になれないということが、傾向が見られますので、いわゆる自信をつけていただくために男磨きセミナーを積極的に開催いたしまして、13人ほど参加いただいております。このようなことも行っております。

また、イベントやパーティーでは、単にカップルの成立だけにとらわれ過ぎないようにして、やみくもに異性に話しかけることなどはさせずに、気持ちを確認しながら、できるだけ参加者の意向に沿った後押しを心がけているものでございます。

さらには、出会いから成婚まで、昨年とことしのいわゆる成婚のカップルを見ますと、20カ月ほどという長い期間を要しているものが多くございます。いわゆるカップルを誕生させるためだけのイベントでは成婚までは難しいと考えております。

また、一方で、結婚を望む方にお話をお伺いしながら、イベントやパーティーを企画、立案しております。ただ、要望につきましては年々変化するようでございまして、昨年度からは子育て推進課で行っております児童扶養手当の現況届けの際に声が上がったことなどを踏まえまして、結婚歴のある女性やシングルマザーに限定した取り組みを始めております。

また、昨年度とことし成婚に至りました3組につきましては、お見合いによるものでございました。そのため、今年度は、先ほど副市長のほうから答弁がございましたが、サポーターと

登録者の信頼関係の構築を目的に、登録者とサポーターとの面談会の実施に力を入れておりまして、7月から順次実施いたしておるところでございます。

今後も時代に合った支援活動ができますよう、結婚を望む市民の皆様方の声を傾聴しながら、取り組みを進めてまいりたいと考えております。

次の項目で、他団体主催の婚活パーティーとの協力体制等につきましてお答えしたいと思います。

他団体の協力につきましては、議員ご案内のとおり、長井商工会議所の若者交流パーティー、同青年部のBBQコン、仏教会の寺コンなどがございます。あと、これ以外にも白鷹町とか飯豊町との、済みません、南陽市と白鷹の共通イベントもございます。イベントの周知といたしましては、長井市の婚活サポート委員会の登録者に対しまして、面談や電話、メールなどで参加の要請、例えばこのイベントには、あなたは多分ふさわしいよと、行ってみたいということ、積極的な参加を促しております。

昨年度の、29年度の出席でございますが、2市1町の共催イベントでは33人、三十路人式では130人、寺コンでは18人、あとBBQこんかつでは59人、そのほかの長井商工会議所青年部で行った雪灯り回廊のイベントでは29人などと、共催では269人ほどの若者が参加しております。

また、連携といたしまして、毎月、やまがた縁結びたいとの情報交換会にも参加して、開かれます意見交換会にも県庁のほうに出向きまして参加をしておりますし、あと、長井市と南陽市、白鷹町では、情報交換会ということで、昨年度も2回ほど開催しております。

また、イベント開催時には、そういった自主、直接するものでなくても、共催とか連携のイベントにつきましても、婚活サポーターの方、特に女性の方を中心でございますが、かなりの協力、朝から晩まで参加いただいておりますし、あと、

市民相談センターの職員が参加しながら、参加者に対して、いわゆる後押しをしながら、また、未登録の方で登録を迷ってる方につきましては、長井市の登録者にならないかという促しも行っております。

2の婚活関係で最後の質問になりますが、結婚経験者やシングルマザー限定、女性は県内限定の交流事業の成果はということでございますが、女性の方が結婚経験やシングルマザー限定のパーティーにつきましては昨年度から取り組んでございます。昨年度は2回開き、今年度も、それはいろいろ声を聞きますと、いわゆる秋ごろと冬がいいという声があるもんですから、本年度もこれから2回開催する予定でございます。

行政的には取り組みきっかけとなりましたのは、平成27年度の国勢調査の結果、離別の女性の割合が6.1%と、県内では酒田市、米沢市、新庄市、鶴岡市に次いで5番目ですね、の高い比率であったことと、先ほど申し上げましたように、いわゆる児童扶養手当の届け出の際に非常にやはり、いわゆるシングルマザーとかだと、なかなか通常のパーティーだと、私がこういう状態だということを知っていただいた上で参加できるパーティーだと非常にありがたいという声が上がったもんですから、そういうところから始めたものでございます。

他のイベントでは、女性参加者が集まらなくて苦労しておりましたが、この2つの事業につきましては、女性の参加者が早くて、多く集まっております。そのことが特徴となっております。これはこの事業に取り組むに当たりまして、対象と考えられる女性の皆様に、どうすれば参加しやすいかなどを伺い、例えば託児所と開催する日時との工夫がどの意見が多く出されたために、託児所を設け、日中の短い時間帯で開催したところ、多くの方に集まっていたということになりました。

現在のところ、成婚までには至っておりませ

んが、29年度を見ますと、2回とも男女10名程度の参加者に対して、2組のカップルが成立しておりました。ただ、なかなか2回とも、2組とも、女性の方は積極的なんですけども、どちらかというと男性の方がちょっと臆してるのかなという状況が見られております。あと、特に2回目につきましては、パーティー終了後、カップルにならなかった男女を対象に会場を一定時間開放したところ、パーティー中は余り話をしませんでした、その後、連絡先を交換し合ったりしてるということがわかりましたので、今後はそういったことも積極的にやっていきたいというふうに考えてございます。

あと、また首都圏などに在住の女性対象の交流事業につきましては、28年度から実施いたしまして、これまで3回開催しております。29年度からは、民間の婚活サイトのエキサイト婚活の女性会員へのダイレクトメールが三、四万円で数万人の方に、会員の方にメールを送られるということで、これを活用してるところが多いものですから、活用したところ、女性の参加者がふえてる結果になっております。29年度はけん玉の体験、30年度はあやめ公園や三淵溪谷の見学に加え、サクランボ収穫体験を取り入れ、女性に長井を知ってもらう機会も設け、参加しやすい環境も整えてございます。30年度でございますが、6月に実施したところ、男性10人で女性10人が集まりまして、女性は大阪府が1人、静岡県が1人、神奈川県2人、東京都2人、埼玉県4人という状況でございました。1日目の終了後に、男性の参加者全員と1人ずつ面談して、次の日の作戦会議じゃございませんが、そういうことも持ちましたが、残念ながら、当日のカップルはできませんでしたが、その後、首都圏の女性と連絡をとり合って、行ったり来たりしてるカップルもあるようでございます。

これらの2つの事業につきましては、これまでのようにターゲットを絞らない単なる婚活パ

ーティーだけでは、なかなかカップル誕生や成婚に結びつくことが難しい状況を解決する一助となっていることと思慮しております。

最初に申しあげましたとおり、成婚に至るまでは長時間を要するケースが多く、長い目でバックアップしていく必要があると思っております。

次に、大きな項目、いわゆるオリパラのホストタウン事業の取り組みについて、2項目についてお答えさせていただきます。

最初に、総合政策課のオリパラにかかわる仕事内容とスポーツ交流員の業務の予定でございます。大きく分けて3つの事業に取り組んでおります。1つ目は、ホストタウンとして国から認定を受けたタンザニア連合共和国との交流事業でございます。2つ目は、文化プログラムの一環としてビヨンド2020プログラムチームの認定申請、3つ目は、新たにホストタウンの対象国となる国や地域の検討でございます。

タンザニアとの交流事業につきましては、本年度は10月21日に行われる長井マラソン大会と、その前後に行うことを計画しております交流に関する覚書の締結や、陸上選手による小・中学生などへの指導、あと瀬古さんとイカンガーさんによる対談などが主となっております。

2つ目は、ビヨンド2020の取り組みでございますが、オリパラではスポーツだけではなくて、日本文化の魅力を発信する取り組みと、障害者にとってバリアを取り除く取り組み、または外国人にとっての言葉の壁を取り除く取り組みについて、内閣官房オリパラ事務局で認証をするものでございまして、長井市では29年度と30年度あわせて、長井マラソン大会や長井文化回廊2017まちめぐり美術館など、10の事業について認証を受けております。この数は県内では、山形市に次いで多い数となっております。

最後になりますが、日本で開かれる夏季オリンピックは数十年に1度の祭典ですし、この機

会に市民の皆様にも多くの国の方々と触れ合っているいただき、自分も東京オリパラに参画しているんだという意識を情勢するため、タンザニアだけでなく、他の国々のホストタウンについても検討するところでございます。

続きまして、スポーツ国際交流員、いわゆるSEAの業務でございますが、地域住民等に対するスポーツ指導など、スポーツを通じた国際交流活動が主体となりますが、ホストタウンのタンザニア出身でございますし、今年度の10月までは長井マラソンにあわせて訪問されるタンザニアの方々のサポートが重要な任務となっております。例えば食事の対応、宿泊場所と練習場所の確認、タンザニア選手団の小・中学生との交流の事前準備などが主な業務となっております。

また、小学校で行っているものとして、アクティブキッズプロジェクトなどでの支援や、得意種目のバスケットボールや陸上競技での部活動などでの支援などを想定し、教育委員会と調整を行っております。

さらには、市民の皆様にもタンザニアをより以上に知っていただくために、座学やおらんだラジオを活用したスワヒリ語講座などを検討しております。

最後になりますが、長井マラソンに向けて、生涯スポーツ課との連携はとれているのかというご質問でございますが、さきの市長答弁にもございましたとおり、競技に係る部分を教育委員会の生涯スポーツ課、競技以外の部分を総合政策課で分担しながら、各種事業に取り組んでおり、長井マラソン大会につきましてもこの枠組みで連携を図っております。具体的にいえば、前日の20日と21日に関して申しますと、マラソンの競技会と陸上教室に関しましては生涯スポーツ課で、瀬古さんとイカンガーさんの対談とか、あとレセプションにつきましてもは総合政策課で主に担当するなど、連携を図りながら成功

に導くように分担をしております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** それぞれの丁寧なご答弁、大変ありがとうございました。

初めに、婚活支援事業について、副市長にお伺いいたします。

すばらしく、きちんとしたお見合いであったり、登録制であったりしたことにちょっと今、なるほどなということを感じたところですが、昔みたいに、今、見合い、あそこあそこいいべっていうふうなのではないんだなっていうことをちょっと実感したところですが、例えばお見合いをするに当たりまして、やはり成婚なされるまで時間がかかるわけですが、お見合いパーティーよりも、やはりお見合いをしたときのほうが成婚率は高いと考えられてますか。

○**渋谷佐輔議長** 遠藤健司副市長。

○**遠藤健司副市長** 一般的な傾向を申し上げますと、イベント、パーティーではカップルが相当数発生いたしますが、それが成婚まで至る割合は非常に低いというふうに感じております。

一方、お見合いで婚活サポーターの皆さんのお骨折りできっかけをつくっていただきますと、まずはお見合いした後、1週間後、あるいは1カ月後、しっかりと情報を得ていただいて、その都度必要なアドバイスをやって、次、相手に対してどういったアクションを行ったほうがいいかと、そういうふうなこともありますので、やはり出会いでの結婚、成婚よりもしっかりとお見合い、お互いを理解させ合いながら、指導しながら成婚に導くほうが確率ははるかに高いというような状況になってます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** やはりそれでしたら、情報が多いほうが私はいいと思いますので、ぜひ、先ほどボランティアはどうかっていう提案をさせていただきましたが、その方向にちょっ

と考えていただければなと思っております。やはりこのままで、何か私も60を超えたら、一人でいるっていうことがこう、若いうちはいいんですけど、やはり一人でどんどん年とっていったらどうかなっていう点を、今後、長井市としても考えていかなきゃいけない問題ではないかなと思いますので、ぜひいろんな情報を集める意味でも、ボランティアの方を募集したり、情報をもう少し、本当、婚活サポーターの方にはこんなに一生懸命なされているっていうことは十分わかりましたので、ぜひサポーターのほうに、市民からも情報いくような形をとれたらいいかなと思いますので、その辺、どうでしょうか、もう1回、副市長どうですか。

○**渋谷佐輔議長** 遠藤健司副市長。

○**遠藤健司副市長** 先ほども申し上げましたが、こちらについては、9月の婚活サポート委員会にご紹介しながら、どういった形がとれるかを、まずはご意見をお聞きしてからというふうに思っています。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ぜひ、人口減っていく中で大事な結婚だと思いますので、今、考え方が変わってるっていうか、昔と違って、一人でも生きていかれるよっていう方が多いと思いますが、やはり家庭があつての幸せな一生かなと私は思いますので、ぜひサポーターの方には今後も頑張ってくださいまして、ぜひ私たちも市民、一市民としてそういう情報を少しでも提供されればいいと思いますので、よろしく願いいたします。

市長にお伺いいたしますが、2020年に向けて多くの予算を投入するわけですよ、このオリパラに向けて、ぜひこの予算を投入する中で、国際交流っていうのは本当大事なことだなと思っておりますので、課まではいかななくても、やはり投入した分を市民に還元するような形で国際交流に力を入れていただきたいと思いますが、

小学校のみならず、私たち市民にもわかりやすいような施策などは今後考えていかれるんでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木富美子議員おっしゃるように、オリパラというのは一つの祭典ですから、きっかけなんでしょうけども、確かに半分交付税措置ある事業をできるだけ選んでやっていきたいというふうには思っておりますけれども、やっぱりもう2年を切って、東京都あたりは相当、徐々に都民の皆さんの意識が変わってきてると。ただ、私どもはまだぴんとこないところがあるんでしょうけども、ここにいらっしゃる方々はもう二度とないと思いますので、50年ぶりなわけですからね。そういった意味では、このチャンスを生かすべきだと思っております。特に、やっぱりまだ市の職員の中にもぴんときてない方がかなり多くて、あとは、どういうんでしょうね、これは私の責任でもあるんでしょうけども、とにかく離れて仕事みんなしてるっていうのは致命的なんですよね。これ、一緒の場所だと非常にやりやすいんです。ですから、例えば総務部門の話だったら、本当調整しやすいんですね、同じように教育委員会も教育委員会で一つにまとまって、ただ、生涯スポーツ課だけ一つぽつんとあるんですけども、そちらは定期的にいろいろできるんでしょうけども、こういったことは本来、同じ庁舎内でやってますと円滑にいくはずなんです。それが証拠に、山形市とか、鶴岡市とか、3つ、4つホストタウンしてるところでさえ、そういうのをしてないわけですよ。ですから、本来は、全庁挙げてやることなんで、課をつくったり、係をつくったからいいかって、形にとらわれてはだめだと。ただし、長いスパンで見えていきますと、まずは各課にご協力いただいて、例えば外から来た人に、これどうしても、日常のせめて英語ぐらい話せないと話にならないんですね、話せな

いと話にならないですね、交流ができないと。ですから、そういったところをどういうふうにやっていくかと、そうしますと、教育委員会にご協力いただくと。あと、うちのほうで、例えば総務部門でやっている総合政策課の中にいらっしゃる国際交流員、また、スポーツ国際交流員の方にも協力いただいて、あとは、ALTに協力いただいて、市民向け、あるいはさまざまな飲食店とか、商売なさってる人向けの英会話の教室とか、そういったことなども含めて、さまざまなことが考えられますので、それらについては、とにかく仕事がどんどんどんどん、新たな仕事なものですから非常に難しいです。経験ないことをしなきゃいけないわけですから、ノウハウないんですよ、つくっていかなくちゃいけないので、それはぜひ、これから、議員からありましたように、一つ新しい部署をつくるというのも、ご提言、大変ありがたいと思いますし、いろいろと具体的にご指導いただければと思います。ぜひ、いろんな取り組みをしてまいります。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 前向きな回答をありがとうございます。

やはり、大事なことですので、ぜひ成功させて、もっと市民もみんなも盛り上がりやっばり、市長がおっしゃるように、ないと私はすごく感じております。今回アジア大会があったわけですから、あれを見ながら、長井にもこうやって身近に来るんだなということを私は感じましたので、ぜひ力を入れて、いろんな方法で皆さんに呼びかけて行ってほしいと思います。

総合政策課長にちょっと戻って、確認させていただきたいんですけど、ビヨンド2020の中の事業で、10個の事業があるということをおっしゃいましたけど、具体的にわかれば教えていただいていた方がいいですか。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘地方創生参事兼総合政策課長** お答えいたします。

ビヨンド2020の認定要件が、いわゆる障害者のバリアフリーとか、例えばあと外国人の言葉の壁を取り除くという事業でございまして、あと29年度の事業につきましては、30年、ちょっと時期が前後しますが、29年度は文化的景観のシンポジウムと、あと、ながい雪灯り回廊まつり、あと長井文化回廊2017まちめぐり美術館、あと文化会館で行いました地域若手アーティスト育成支援事業の梅津碧ソプラノ・リサイタル、あと30年度につきましては、ながい水まつり・最上川花火大会、あと長井マラソン大会、長井あやめまつり、白つつじまつり、黒獅子まつり、あとホストタウンの誘致の講演会となっております。この辺につきましては、やはり外国語を紹介したり、あと会場がバリアフリーというか、障害者にも対応したりということの点で認定を受けたものでございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** もう一つ、最後ですけども、スポーツ国際交流員についてですけども、言葉の壁があると思うんですけど、英語は大丈夫なんでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘地方創生参事兼総合政策課長** 英語でならば、通常、通常どおりというか、専門的な英語もしゃべれるようでございます。それと、ふだん英語がしゃべれる職員、市の職員の中も普通に、通常に話しておりますし、あと、ちょっと難しいことにつきましては、国際交流員が日本語が全てわかりますので、彼女を通して通訳してもらったりしております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ありがとうございます。

お話を聞きしますと、彼も奥さんを連れて長井にという、ちらっとうわさでお聞きしたんですが、奥さんはいらっしゃるんですか。

いらっしゃいますよね。一緒にこちらの長井に同行なさるとお聞きしたので、ぜひ長井を好きになっていただき、少しでも長井に国際化が進むことを期待して質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

散 会

○渋谷佐輔議長 本日はこれをもって散会いたします。

再開は明日午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後 4時19分 散会